

こくりにゅうだよ



大阪府立桜塚高等学校2年 増元 涼香

「湿気で髪がボサボサです。アジサイが楽しみです。」

夏期ホストファミリー ボランティア登録説明会

6月17日(日) 14:00~16:00

留学生と交流するホストファミリー事業(家庭宿泊なし)の説明、経験者や留学生との懇談ほか

定員:30人(先着順・要申込)

参加費:無料

世界を食べよう

～ペルー編～

6月28日(木) 10:00~13:00

ペルー出身の講師と料理を作って交流する。

定員:15人

(先着順、6月24日(日)までに要申込)

参加費:2000円

※いずれも会場はとよなか国際交流センターです。

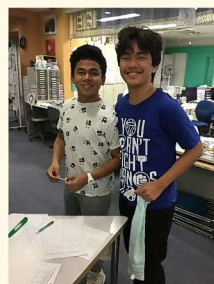
Maligayang Pagdating sa **PINOY FIESTA**



5/20(日)、フィリピン・ヤング・アット・ハーツ・クラブ(FYAHC)が主催する「PINOY FIESTA」が盛大に開催されました！とよなか国際交流センターの一角ではカラフルな飾り付けと華やかな民族衣装、まるでアートのように配置された食べ物などが会場の雰囲気をさらに盛り上げてくれました。オープニングのパレード入場から始まり、ダンスにゲームにビンゴにと、おとなも全力で楽しめるプログラムで構成された3時間半でした。

親子連れでの参加も多く、笑い声と音楽の絶えないイベントになりました。秋には地域のフィリピンコミュニティと共催で運動会も計画！今後の活動も楽しみです。

※FYAHCは…フィリピン人の中高年の方のための居場所づくり事業です。「心は若く」という意味で「Young at Hearts」と名付けられましたが、身も心も元気いっぱい活動中です。



スタッフ おすすめ図書



弟の夫

(田亀源五郎著・双葉社)

テレビドラマ化されたのでご存知の方も多いいかもしれません。娘と二人暮らしの父(弥一)の元に、弥一の弟の結婚相手であったカナダ人男性(マイク)が訪ねてくるところから物語は始まります。最初はマイクに対し戸惑いばかりの弥一ですが、セクシャルマイノリティに対する社会の常識や偏見に囚われていない小学生の娘の考え方、マイクとの日々の交流等を通して、無意識のうちに偏見を抱いている自分に気が付いていきます。

また、「価値観の違う多様な人々の存在を知り、それを受け入れることの大切さ」、「マイノリティに対する差別の現状」、「“常識”って何だろう」、「家族のあり方」、「愛って何」等々…深いテーマを、日常の描写を通して丁寧に描きつつ、読者に投げかけています。読後は胸が熱くなり色々考えさせられます。普段マンガを読まれない方にも是非手に取っていただきたい一冊です。(協会職員・大庭みゆき)

Youは何しに国流へ？

第9回

センターで活動している人を紹介します☆

「みんな、元気に来てるかなあ…」

毎週金曜日の夕方、阪急電車の中でそう思いながら、センターの子ども学習広場「学楽多（がらくた）」に来ています。「学楽多」には、外国にルーツをもつ子どもだけでなく様々な背景を持つ子どもたちが10数人来ています。

豊中との関わりは、数人の友人がセンター事業に参加していたので、イベントに誘われ何度か参加する程度でした。2年前、「子ども学習の場ができるので手伝ってほしい。」と言われ、私は大阪市のおばさんだけど、これも何かの縁

かなと思い引き受けたコーディネーターですが、今では子どもたちに会うのがとても楽しみになっています。

教科学習だけでなく料理を作ったり、ゲーム遊びをしたり、工作をしたりと、ボランティアの皆さんと楽しい時間を持てるよう工夫してきた結果、子どもたちは学習意欲も高まり、みんな兄弟姉妹のようにすっかり仲良くなりました。これからも楽しく安心できる居場所として、学習する楽しみを持てる場になるよう、さらに工夫していきたいと考えています。



子ども学習広場「学楽多」
コーディネーター

こぼり ちなこ
小堀 千砂子さん

コラム 「蘇州的随記☆仰望天空（蘇州での徒然日記☆空を見上げて）」（第1回） 柳本 美鈴

子ども母語・スペイン語アシスタントの柳本美鈴さんが、2018年4月より中国に滞在されています。現地に住んでいるからこそ感じること・ものがたくさん詰まった、美鈴さんからの生活便りをどうぞ。

你好（こんにちは）！私は、この4月から、中国の蘇州市というところで生活しています。蘇州市は、上海市から西へ150km（大阪～岡山くらい）のところにあります。市内には水路が流れ、有名な中国庭園や昔の街並みを残す、とてもきれいな町です。こちらへ越してきて1か月が過ぎました。私が住んでいるところは、周りにたくさん日本人がいて、近くに色々なお店もあって、生活するのに全く困りません。とても快適に過ごすことができます。このコーナーでは、私がここで生活する中で、不思議に思ったことや驚いたこと、おもしろい！と思ったことなどをコラムで紹介したいと思います。

さて、私が蘇州市に来て一番最初に感じたことは、「道を歩くのが怖いなあ」ということです。初めて町を歩いていたら、急に後ろからバイクが追い越してきたのでドキッとしました。でも、バイクが近づいてきたら、音で気が付きそうなものですね？けれども私は全然気が付きませんでした。それには訳があります。それは・・・

実は、こちらで走っているバイクのほとんどは、電気で動く『電動バイク』なんです。日本で見かけるのは、ガソリンで走るバイクですが、それとは違って、音がとっても静か。そして排気ガスも出ません。そう、自転車と同じ感じですね。こちらでは、電動バイクが自転車と同じように見なされていて、運転免許の必要も無く誰もが気軽に乗れる乗り物なんです。中国人の友人に、「じゃあ子どもでも、運転していいの？」と聞くと、「それはさすがに危ないから、親がダメって言うね～」という返事がきました。

この電動バイク、電動といってもかなりのスピードが出ます。駐輪場や家のコンセントで充電でき、誰でも乗ることができるので、とっても便利！ただ、便利な分、やっぱり事故も多いようです・・・。私も気をつけて道路を歩かなくては、と思っています。



こんなバイクがたくさん走っています↑

フットレポ&事業紹介 ホストファミリー事業



留学生とホストファミリーとの
マッチング作業中

書類の準備と発送作業中



留学生とホストファミリーとの対面式



大阪大学やJASSO大阪日本語教育センターの留学生とホストファミリーボランティアがホームビジット型の交流をしています。今年度春は大阪大学27組、JASSO20組の新しい出会いに向けて、世話人会メンバーが、マッチング作業や、対面式書類の準備と送付作業、対面式当日のサポート等を行いました。

5/12(土) 哲学カフェ

進行役・佐々木さんより



テーマ
「ひとりで居たいのは
どんなとき？」

今回のテーマは「ひとりで居たいのはどんなとき？」。「ひとり」について、人が“たくさん”集まる場で考えてみるとどうなるのかということも進行役としては楽しみでした。

私が面白かったのは、“ひとり”でいて充実していると感じているときと、寂しさや悲しさ、つらさを感じる時の違いは何かという点。“ひとり”がネガティブに感じるのは社会や集団との“孤独”“孤立”“疎外”を感じる時であるという考えは、私の経験からも共感することが多かったです。企画段階では“ひとり”ということについて共同体的なものからは分けて考えたいと思っていましたが、どうやら共同体から分離して考えることはできなさそうであるというのも私にとって貴重な気づきでした。

“ひとり”が充実していると感じるときは周囲のことを大して気にせず自分のことに集中しているのに、“ひとり”が寂しくなるときには周囲と比較して考えているのは不思議だなあと感じています。この違いは一体何なのでしょう？



登録グループの活動紹介



No.9 とよなかま

——今日の活動は子どもよりもおとなが多いですね。

嵯峨：今回は平日だったのでおとなだけでしたが、普段土曜日・日曜日に開催するときは、子どもだけで20人ぐらいは来ます。スタッフはだいたいおとな4人ぐらいですね。参加者は少ないときは12,3人ぐらい、多いときは30人を超えることもあります。

——これまでの活動について教えてください。

嵯峨：立ち上げたメンバーは私ではありません。もともと、「小学校外国語体験活動」という協会の事業から派生した形で始まりました。外国人ボランティアが豊中市内の小学校で自国の文化を子どもたちに紹介するのですが、黒板を使った机上の説明はできても、実際にそれを食べたり一緒に調理をするわけではないので、「実際に作ったり食べたりすることでいろいろな国の食文化を広めたり、地域の外国人の人たちが元気になればいいね」ということで2011年から「とよなかま」を立ち上げ、「カラフルキッチン(外国人の講師に文化や料理の紹介をしてもらいながら、地域住民との交流や多文化共生を目指すイベント)」が始まりました。最初はとよなか夢基金の助成を受けたりしましたが、今は卒業して自分達で活動費も賄うようになっています。

——活動を通して感じられる「変化」はありましたか？

嵯峨：以前シリアの留学生を講師に招いてシリア料理を作ってもらったことがあり、料理だけでなく現地の情勢についても詳しく教えてくれたんです。難しいことをいっているわけじゃないのですが、自分たちの暮らしとはぜんぜん違う状況で暮らしていることを知って、私たちも勉強になりました。ハラルとか宗教的な視点からみた食べ物のこと、現地の教育制度についても教えてもらいました。報道ではシリアというとほとんどが戦争について取り上げられたものですよね。メディアからは限られた情報しか入ってきませんが、本当はそばにすごくきれいな古城があったりもする。留学生に出会えたから初めて知れたこともありました。

とよなか国際交流センターには、市民による自主的な国際交流活動を支援するための登録グループ制度があります。実際の活動内容や国際交流への思いを伺いました。

——講師には食べ物の文化だけじゃなくて、自国のことも話してもらうんですね。

嵯峨：毎回話してもらいますね。もちろんお料理も作りますけど、「私の国ってこんな国だよ」というのはスライド等を作ってプレゼンしてもらうように講師にはお願いしています。普段の生活では知り得ない話が出てくることもあって、すごく楽しい活動が続けて良かったなと思います。報道ではわからない素の人間みたいなのがわかるのは、一緒に活動してこそですね。同じ人類だなとか、同じ人間だなというふうにも思ったし。参加した子どもたちもこれから様々な外国に触れることって増えてくると思うし、重要なことになってくるので、世界にはいろんな人がいるんだということに気が付いてもらえたらという思いでやっています。

——新しく活動で何かやってみたいこととか、こんな人に来てほしいというイメージってありますか？

嵯峨：子ども向けに大体夏休みに2回、ハロウィン、クリスマスと年4回やっていますがこの4回やっているうちのハロウィンとクリスマスに関しては大体アメリカの文化になるのでアメリカ人の先生にお願いしているのですが、夏休みの2回に関しては、もっと色々な国を取り入れたいと思っています。アジアの人が多いですが、ヨーロッパや南米の国の料理や文化を知る機会も作りたいですね。

【活動についての問い合わせ先】

団体名：とよなかま

連絡先：toyonakama@gmail.com (嵯峨)

活動日時：不定期

とよなか国際交流センターおしらせ

「こくりゅうだより」第110号(2018年6月号)

発行元・問い合わせ：(公財)とよなか国際交流協会

〒560-0026 大阪府豊中市玉井町1丁目1-1エトレ豊中6F

阪急宝塚線豊中駅すぐ

開館時間：9:00～21:30(貸室受付は20:00まで・水曜休館)

TEL:06-6843-4343 FAX:06-6843-4375

E-Mail:atoms@a.zaq.jp

WEB: <http://www.a-atoms.info/>



SNSも随時更新中！

「とよなか国際交流センター」で検索！

